

〈研究ノート〉

台湾人日本語学習者に見る「について」の使用特徴

—学習者コーパスを利用して—

張 秀 玲

キーワード：過剰使用，非用，母語干渉，共起関係，習得

1. はじめに

複合助詞「について」は日本語学習者が初級段階の早い時期に教わるにもかかわらず，かなり進んだ段階でも誤用が残る傾向にあり，他の助詞との混用などもよく見られる。そこで本論はコーパスを利用し，台湾人日本語学習者の作文データに見られる複合助詞「について」の使用特徴及びその使用傾向について考察を行い，学習者の使用傾向を究明する。

2. 分析対象

分析に用いたデータは台湾・成功大学が構築した「台湾多國語言學習者語料庫系統」にある「台湾人日本語学習者コーパス (CTLJ) のWEB版 (<http://corpora.fild.ncku.edu.tw/>)」から検索した。18テーマの作文の数は延べ1,563篇で，八つの大学の学生を対象に収集したデータである。

3. 調査結果についての分析

学習者コーパスから抽出した「について」の用例190例から，複合助詞用法として用いられたものだけを扱い，「についていく」「についている」のような本動詞の用法及びその活用形ものは除外した。こうして得た165例のデータをもとに，学習者が使用している「についての文型」及び「についての意味・機能」を調査し，その傾向について考察する。

3.1 「について」の文型の使用傾向

国立国語研究所で作成された『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(略称BCCWJ)を用い，「について」の形態的特徴を調べたところでは，大きく分けて次の四種類の文型に分けることができる。

(1) 「NについてΦ」：選挙について，この問題について (2) 連体格用法「NについてのN」：食事についての不満 (3) 副助詞「は，も」後続：この問題については，これについても (4) 接続表現が後続：「Nについていえば」「Nについていうと」「Nについていうならば」「Nについてみると」；(5) 文末：「Nについてです」「Nについてである」及びその活用形。「BCCWJ」にある書籍データとYAHOO知恵袋と学習者コーパスの「について」の使用分布状況は以下図1で示すとおりである。

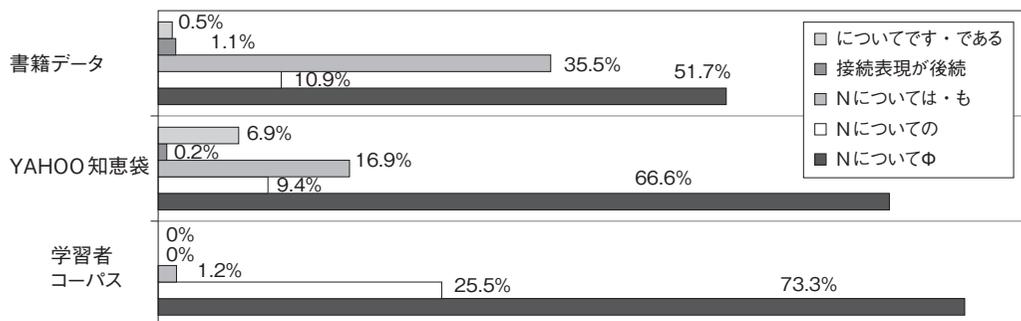


図1 「について」の形態的特徴の割合

今回の作文データを考察する限りでは、まず学習者の「について」の使用から見ると、「NについてΦ」(73.3%)と「NについてのN」(25.5%)の二つの形態形式の使用が全体の98.8%である。一方、YAHOO知恵袋や書籍データなどの日本語コーパスから見られる日本人がよく使う「Nについては」，「Nについても」の使用は、学習者コーパスからは2例(1.2%)しかない。

3.2 「について」の意味・機能の考察

文法機能の立場から学習者の「について」の用法を次のように分類できる。

表1 学習者の「について」使用例の用法分類

用法	例文数	正用	誤用	例文
テーマとしての用法	46	44	2	教育制度について／少子化問題について
連体格用法「Nについての+N」	41	34	7	お正月についての思い出
「Nについて+述語(動詞句)」	65	44	21	台湾文学について、小論文を書いた。
「Nについて+述語(形容詞句)」	13	4	9	政府は危機の処理について、いつも遅い。

意味・機能からの考察では、学習者の「について」の使用例は以下のような特徴が見られた。(1) 「Nについて+述語」では、形容詞句の多用が見られたが、誤用も多い(69%)。(2) 連体格用法「Nについての+N」では、短単位では誤用がないが、文になると前後の呼応がずれる場合が多い。(3) 母語の影響で「について」の過剰使用が多い。全体的には語彙・文法面の単純な誤りは多く見られないが、前後の共起、母語影響による過剰使用が多いという傾向が分かった。

4. 今後の課題

以上の分析結果から学習者の習得の観点からの分析に以下の課題が残っている。(1) 学習者の誤用文例と母語干渉についての検討, (2) 「について」の非用及び過剰使用の考察。今後, これらをさらに検証する調査を行い, 「について」の習得に影響する要因について総合的に考察を進めたい。

参考文献

- 柏崎雅世 (2005) 「「について」と「に関して」—「に対して」を視野を入れながら—『東京外国語大学留学生センター論集』31 東京外国語大学 pp.1-16
- 黄淑妙 (2009) 『日本語習得の達成度分析』致良出版